

授業科目(ナンバリング)	介護における医療的ケアⅠ(介) (DB316)(実践的教育科目)			担当教員	石橋 亜矢・田中千恵美 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、基礎的な知識技術を習得する。たんの吸引について、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な学修とする。たん吸引についての知識に基づき、シュミレーターを用いて一人でたんの吸引が実施できるようになる。</p> <p>この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。</p>							②③⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	人体の構造と機能を理解し、救急蘇生法・喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できる。				小テスト 実技試験	25% 35%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる。				ディスカッション 実技試験	5% 10%	
協働・課題解決力	利用者や家族、チームに対するコミュニケーション能力を高め、観察した事柄を的確に記録することができる。				実技試験 課題レポート	10% 5%	
多様性理解力	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる。介護職の中で中核的な役割を担うことができる。				ディスカッション 実技試験	5% 5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業後にマナバ上に掲載する「小テスト」(25%)は、60点以上を合格水準とし評価。たん吸引の実技については、シュミレーターを用いて喀痰吸引・救急蘇生法を「実技試験」(60%)で評価。また、「課題レポート」(5%)を課し、ポートフォリオ上にてフィードバックを行い共有する。「ディスカッション」(10%)は、ケアの根拠について他学生とのディスカッションを行ってもらい、教員からのフィードバックは授業内にコメントの形で実施し総合的に評価をする。</p>							
授業の概要							
<p>医療現場で認定看護師の資格と経験をもつ教員(医療的ケア教員資格保持者)が担当し、現場実践を活かした学修を行う。介護福祉士が医療的ケアを行うに至った背景や制度・法律、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎的な知識技術、並びにたんの吸引について、1~22回まで講義する。22回目で喀痰吸引のプレゼンテーションを行う。知識の修得を確認した後23~30回で、救急蘇生法と口腔・鼻腔・気管カニューレ内のたんの吸引について演習を実施し、技術の習得を確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。(18~30回は、田中先生と実技指導。)</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座15『医療的ケア』 中央法規 発行者：荘村明彦 参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2020 下/中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>医療的ケアを介護福祉士が行うことの意味を自覚し、利用者の尊厳を守る行為として考えてほしい。医療的ケアは安全に行う必要があり、生命に関わる行為であることをから、筆記試験、また、実技試験の修得に向けて、自ら学習し実技の練習を行うこと。医療的依存度の高い要介護者も増加しているが、要介護者の生活という視点を忘れずに、生活支援のあり方も同時に追求して欲しい。</p> <p>注意点：痰吸引についての演習、実技チェック・実技試験となるため、必要時に補講を行う。また本授業は50時間以上の講義を受けていないと単位の取得ができないため、欠席しないよう体調管理に留意する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	人間と社会	個人の尊厳、医療ケアの基本的考え方を学ぶ。	予習・復習：個人の尊厳
2	保健医療制度とチーム医療	保健医療の制度や法律、倫理について学ぶ。	予習・復習：法律・倫理
3	保健医療制度とチーム医療	医療的ケアと痰の吸引の背景について学ぶ。	予習・復習：医療的ケアの背景
4	保健医療制度とチーム医療	社会福祉士等の法制度について学ぶ。	予習・復習：法制度
5	安全な療養生活①	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施について学ぶ。	予習・復習：安全な実施法
6	安全な療養生活②	救急蘇生について学ぶ。人体解剖のプレゼンテーションを行う。	予習・復習：救急蘇生法
7	清潔保持と感染予防①	感染予防について学ぶ。	予習・復習：感染予防
8	清潔保持と感染予防②	医療廃棄物の処理や、消毒滅菌について学ぶ。	予習・復習：消毒・滅菌
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①	呼吸のしくみと喀痰吸引について学ぶ。	予習・復習：呼吸器の解剖
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②	人工呼吸と吸引について学ぶ。	予習・復習：急変時の観察
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③	人工呼吸器装着者の生活上の留意点について学ぶ。	予習・復習：呼吸の異常、痰排出や貯留について
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論④	呼吸器系の感染と予防にについて学ぶ。	予習・復習：人工呼吸器装着者の対象について
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑤	ヒヤリ・ハットアクシデントの実際と報告について学ぶ。	予習・復習：ヒヤリ・ハットアクシデントについて
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順①	小児の吸引の留意点、吸引の説明 吸引器具、器材とそのしくみや清潔保持について学ぶ。	予習・復習：小児の吸引の留意点、説明と清潔方法
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順②	吸引前の観察項目と実施手順について学ぶ。	予習・復習：吸引時の観察項目と実施手順
16	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順③	喀痰吸引に伴うケア、痰吸引の危険防止について学ぶ	予習・復習：痰吸引の危険防止、安全管理について
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引手順④	急変・事故発生時の対応や、事前の医療職との連携・体制について学ぶ。たん吸引実施の必要物品を確認する。	予習・復習：急変・事故発生時の対応
18	「たん吸引」の実施手順①	たん吸引で用いる必要物品のしくみ、必要物品の清潔保持、準備・設置方法、留意点について学ぶ。	予習・復習：必要物品の機能について
19	「たん吸引」の実施手順②	吸引前の利用者の状態観察と留意点、ならびに利用者の準備方法と留意点について学ぶ。	予習・復習：吸引前の観察項目と準備について
20	「たん吸引」の実施手順③	吸引実施の手順と吸引中の留意点、吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認や医療職への報告について学ぶ。	予習・復習：吸引手順と医療職への報告について
21	「たん吸引」の実施手順④	吸引実施後の吸引物の確認と医療職への報告、片づけ方法と留意点についても学ぶ。	予習・復習：吸引物のケア、記録、後片付けについて
22	「たん吸引」の実施手順⑤	喀痰吸引についてプレゼンテーションを行う。	予習・復習：プレゼン作成し、発表準備をする
23	救急蘇生法の実施	救急蘇生法をシュミレーターを用いて実施する	予習・復習：救急蘇生法
24	「たん吸引」の実施①	たん吸引の手順の確認、ならびに必要物品を確認する。	予習・復習：吸引手順習得
25	「たん吸引」の実施②	口腔内たん吸引をデモンストレーションで確認する。	予習・復習：吸引手順習得
26	「たん吸引」の実施③	口腔内たん吸引をシュミレーターを用いて実施する。	予習・復習：吸引手順習得
27	「たん吸引」の実施④	鼻腔内たん吸引をデモンストレーションで確認する。	予習・復習：吸引手順習得
28	「たん吸引」の実施⑤	鼻腔内たん吸引をシュミレーターを用いて実施する。	予習・復習：吸引手順習得
29	「たん吸引」の実施⑥	気管カニューレ内のたん吸引をデモンストレーションで確認する。	予習・復習：吸引手順習得
30	「たん吸引」の実施⑦	気管カニューレ内痰吸引をシュミレーターで実施する。	予習・復習：吸引手順習得